

NUSOM Summer School に参加して

名古屋大学医学部医学科 5 年

水谷 友香

1. 概要

2024 年 7 月 7 日から 13 日までの 1 週間、NUSOM(Nagoya University School of Medicine) Summer School に参加しました。このサマースクールは、海外協定大学である米国のデューク大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校、カリフォルニア大学デービス校、中国の北京大学の医学部学生が参加しました。今回のサマースクールのテーマは、「Bridging Community Medicine and Innovations in Japan」となっており、地域医療を実際に経験できる機会や、医療革新や技術の講義などがあり、それに加え海外からの学生たちが日本の伝統や歴史に触れる機会もあり、大変充実したプログラムでした。

2. 内容

(1) かがやきクリニック・Cam Cam swallow

2・3 日目には、在宅医療・訪問診療専門である医療法人かがやき総合在宅医療クリニックを訪問しました。海外の医学生達は美濃のクリニックで実際に在宅医療を見学し、私たち名大生は、事前に在宅医療研修を受けさせていただきました。

かがやきクリニックでの経験は、患者さん一人一人が、在宅医療を通して希望する生活を送れるように提供・支援している様子を実際に見させていただくことができ、地域医療の大切さを学びました。医師だけでなく、看護師や管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、音楽療法士などさまざまな職業の方々が協力しあって、患者さんが希望する生活・医療を提供する様子は、チーム医療の大切さを改めて感じました。また、2 日目には名大の学生は、重度の身体・知的障がいがある子ども、医療的ケアを必要とする子どものためのリハビリ施設も見学させていただきました。患者さんが過ごしやすいような施設の設計構成や設備があり工夫されており、細部まで気をかけている心遣いに感心しました。

Cam Cam Swallow では、病院主導で運営されているカフェであり、嚥下障害がある方々でも食べられるように作られた嚥下困難者向けのメニューを提供しています。嚥下障害になってしまっても、食事を楽しむことができるのは、素晴らしいことであると感じます。実際に私たちもその嚥下食を食べさせていただきました。見た目も色とりどりで形にも細部までこだわっており、味も見た目も良く、驚きました。

(2) とんがりレクチャーについて

東海地方の大学生の起業家育成に焦点を当てた団体である「Tongali」についてのお話をお聞きました。トレーニングコースや起業家ワークショップの開催などを通して、起業家精神と実践的な能力開発を支援してくださる環境であり、そのような団体の存在や活動が行われていることに感心しました。実際に「Tongali」の活動に参加されてきた医学科 6 年の森田さんの経験談も聞くことができ、興味深かったです。

(3) 病院見学・xR センター見学

海外からの医学生のみんに名古屋大学附属病院を紹介するため、手術室や SICU などの病院見学、xR センターを訪問しました。xR センターでは、バーチャルテクノロジーの体験をさせていただきました。私たちは5年時の臨床実習で使うこともあるセンターでもあり、見学しながら他の医学生達に普段の臨床実習内でxR センターを用いてどんな実習を行なっているかなどを話しました。それと共に、海外の医学生・先生からも自身の大学病院の雰囲気との違いや共通点なども聞くことができ、興味深かったです。

(4) グループワークについて

まず、初日に、日本の医療制度と現状の問題点についての講義後、3カ国の学生を含んだグループに分かれ、今後日本の医療制度の解決策について話し合いました。私たち日本の学生も再度現状の問題点について深く考える良い機会となったとともに、他の国の学生との話し合いを通して、日本と米国・中国との医療制度の違いも知ることができました。例えば、私のグループの米国の医学生は米国ではGP(General Practitioner)制度が確立されていることを共有してくれました。このように、他の国の医学生たちと話すことで、色々な角度からの議論をすることができ、大変興味深かったです。

かがやきクリニックでの講義では、同じく3カ国の学生を含んだグループに分かれ、在宅医療の長所と短所を話し合いました。大きい紙に思い浮かんだ点をどんどん記入していくことで、地域医療・在宅医療について深く考える良い機会となりました。また、他には、各国ごとの医学生グループに分かれ、10年後の自国の未来についての願望をまとめて発表しました。

(5) CCD(Clinical Case Discussion)

5日目である7/12に、NEJMの教育用ケースレポートを題材として、学生主体で活発に議論がなされる形式のセミナーであるCCDを行いました。日本の学生は1度このケースを発表したことがあったため、グループに分かれた際には海外の学生がメインで鑑別疾患や検査をあげてくれました。

3. 感想

このプログラムでは、米国と中国の医学生とともに地域医療に触れて経験する貴重な時間となりました。私たち日本の学生は留学生のサポートをメインに行いましたが、普段はなかなか米国・中国の学生と話す機会がなかったので、参加してとてもよかったと思っています。

また、米国と中国の医学生が参加していたため、国による医療制度や医療保険の違い、現状の問題点や想像する10年後の未来などについての発表・議論する機会があり、大変学びのあるプログラムでした。さらに、海外の医学生・先生方が日本の伝統・文化に触れる機会がプログラムに組み込まれていました。岐阜への訪問の際には鵜飼ツアーに参加し、美濃の古い街並みも見学しました。

何よりも最も強調したいことは、このサマースクールを通して、米国と中国の医学生達や先生方と仲良くなることができ、このプログラムに参加していなければ得られないことができない国境を越えた繋がりを築くことができたことです。この国際的な繋がりは、私たちが医師として活躍する将来に、とても役に立つと確信しています。世界中から集まった素晴らしい人々と出会い、この先何年も続くことを願う友情を築けたことは、かけがえのない経験であり思い出です。

個人的なことになりますが、6年次の交換留学プログラムでノースカロライナ州のデューク大学に行かせていただけることになっています。このプログラムを通してデューク大学とノースカロライナ大学チャペルヒル校の医学生と先生方ともたくさんお話しできてとても良かったです。来年の春にみんなに再び会えることをとても楽しみにしています。

4. 今後の展望

このサマースクールを通して、地域医療について実際に学べるという知識的な面だけでなく、国境を越えた素晴らしい繋がりをつくることができたことが非常にかけがえのない経験となりました。今後、このプログラムのように海外の医学生と関わるができるプログラムがあれば、他のみんなにもぜひ参加してほしいと強く思います。また、かがやきクリニックのように地域医療について実際に教えてくれて体験させてくれるような素敵なクリニックがあることも、ぜひ他の皆にも知ってもらいたいです。

5. 謝辞

今回の海外での課外活動におきまして、貴重な機会をくださいました国際医学教育学の粕谷教授をはじめ、プログラムをずっと前から準備してくださった長谷川先生、Itzel 先生、笠井様、宮川様、在宅医療を経験させてくださったかがやきクリニックの皆様、プログラム中に講義をしてくださった先生方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



